

つばめ若者会議（新潟県燕市）

「まちあそび」と「まちこらぼ」

で取り組むゆるいまちづくり

つばめ若者会議

新潟県燕市役所

地域振興課交流推進係

主任 ひやま きいち
樋山 貴一



1. 燕市の概要

燕市は、新潟県のほぼ中央、新潟市と長岡市の間に位置しています。広大な越後平野の地勢と恵まれた水利を活かした米づくりを中心とした農業が盛んであるとともに、生活用品から産業機械等に至る金属加工業、高品質で魅力ある金属洋食器、金属キッチンツールなどの製品を数々生み出している、ものづくりのまちとして全国的に有名です。

また、良寛ゆかりの地である国上山や日本さくら名所100選にも選ばれた大河津分水などを有する歴史と自然が調和した魅力あるまちです。



G7 新潟財務大臣・中央銀行総裁会議
贈呈品に選ばれた燕市産ぐい呑み



日本さくら名所100選に選ばれた
大河津分水の桜並木

2. 活動開始の背景・経緯

燕市では、2013年につばめ若者会議を発足し、現在に至るまで11年間若者による活動を継続しています。発足に至る経緯は、毎年実施している市民向けアンケートにおいて「まちづくりの満足度」という問いに対し、40歳以下の若者のほとんどが

「どちらでもない」という回答であったため、若者がまちづくりに対し何を考えているのかを知るために、40歳以下の若者で出身地域を問わず参加できる「つばめ若者会議」を発足しました。

つばめ若者会議発足から3年の間に未来ビジョン「つばめの幸福論」の作成や全国の地域づくりに取組む人たちの交流イベント「今宵サミットIN燕」を開催するなどメンバーが一致団結し精力的に活動していましたが、イベントなどの活動のゴールを設定してしまうと、ゴールした後に活動が続かず、イベントが終了すると参加しなくなるメンバーが多く見られるようになりました。そのような経緯から2016年に「自由でいいんです」を合言葉にし、ゴールを設定せず若者のやりたいことを実行する「燕ジョイ活動部」を大学生・29歳以下の社会人を対象にスタートしました。若者たちに結果や成果を求めず、若者のやりたいことを実行する「まちこらぼ」を行う過程での新しい発見こそが重要だという結論に至り、つばめ若者会議の方針転換を行いました。

さらに2020年には、高校生を対象とした「燕市役所まちあそび部」をスタート。まちづくりではなくあえて「まちあそび」というコンセプトとすることで、あそびの中でまちに対する新たな発見や、学びを得てもらい、まちに対する愛着心を育む活動を行っています。



燕市役所まちあそび部第一期生

これらの活動で一つだけルールを設けているのが、「まちこらぼ」や「まちあそび」はまちのリソースと掛け合わせて実行するという事です。まちのリソースとかけあわせるとは「燕市内の場所」で、「燕市のもの」を使って「燕市のおとな」と一緒に活動するという事です。ただあそぶのではなくこれらのリソースと掛け合わせることで、若者のなかで「燕にこんな場所があったのか」「燕でこんな製品を作っているのか」「燕にはこんなに面白いおとながいるのか」という新たな発見が生まれます。若者との活動を通じまちのおとな側にも変化が見られています。

まちづくりを行うにあたり、これまでは「商店街の活気がないから若者ににいかイベントをしてほしい」というような抽象的な要求をしていたおとなが、実際に若者と活動することで彼らの柔軟なアイデアや、SNSでの発信などの得意分野を理解し、「新商品の開発に際し一緒にアイデアを考えてほしい」というような具体的に協働を推進する要求に変わってきました。若者の活動はおとなにも変化を起こし、まちこらぼ・まちあそびに協力してくれる方が増加している。「ゆるいまちづくり」が燕に浸透してきています。

3. 活動内容

燕市役所まちあそび部は月に2回程度集まり、メンバーそれぞれの「やりたいこと」のアイデア出しミーティングを行っています。あくまで「あそび」を決める場なので、お菓子を食べながら流行りの音楽を流し、「ゆるい」雰囲気です。ミーティングを実施し、若者がアイデアを出しやすい、放課後の教室のような環境を創出しています。ミーティングで出たアイデアは即実行。実施可能なまちあそ

びはアイデア出しから1週間後には実行するスピード感を大切にしています。



ミーティングの様子

まちあそびの例として、「大人には忘年会があるのに俺らにはない、高校生の忘年会をやりたい」というアイデアから、「おでんカラオケPARTY」を企画しました。

①市内農家に依頼し野菜の収穫をし、②市内業者に依頼しおでんを入れる鍋を借り、③農村地域生活アドバイザーに依頼し一緒におでんの調理をし、④市内温浴施設に依頼し宴会場を借りる。これらのまちのリソースと掛け合わせ、イベントを実施しました。

高校生たちにとってはイベントを実施する過程で多くのまちのおとなと関わり、学びを得たうえで楽しい忘年会を実施することで、協力してくれたおとなへの感謝の気持ちや、燕で楽しいことをした思い出ができ、燕への愛着心につながっています。



おでんカラオケPARTYの様子

別の事例では「好きな主食1位がお米かラーメンか選べない」という高校生の何気ない一言から、文化庁「未来の100年フード」に認定された燕市の「背脂ラーメン」とお米をコラボさせるという斬新な発想が生まれ、地元の道の駅の協力のもと「背脂ラーメンおにぎり」を開発しました。高校生が考案した背脂ラーメンおにぎりは商品化され、レギュラーメニューとして道の駅SORAIRO 国上で販売されており、高校生のアイデアがまちの活性化につながっています。

す。



燕市役所まちあそび部が開発した「背脂ラーメンおにぎり」

4. ゆるいまちづくりの成果

これまでに累計261名の若者が活動に参画し、取組事業数は190回と活発に活動を続けてきたことで、若者による「ゆるいまちづくり」が燕に浸透しています。協力してくれるまちのおとなも増え、協働で行った事業数は57回と市内で若者への協力の輪が広がっています。

燕市役所まちあそび部の活動は燕市内に留まらず県内外自治体との交流にもつながっています。2024年8月に燕市で開催した「高校生サミット」では、燕市役所まちあそび部と同様に高校生によるまちづくり事業を行っている県内外6自治体から高校生33名が集まり、互いの活動を紹介しあい交流を図りました。ゆるいまちづくりが燕市の交流人口増に貢献しています。



「高校生サミット」集合写真

燕市役所まちあそび部の活動を通じて、高校生年代からまちとの関わりを持って、燕市の魅力を知り進学する高校生のほとんどは、卒業後も燕市とのつながりを持っています。県内に進学または就職した場合は燕ジョイ活動部へ加入し、つばめ若者会議のなかの1つ上のステージで活動しています。県外に転出した場合、燕市出身で県外在住の30歳以下の若者によるコミュニティ「つばめいと」に加入し、東京や大阪で開催される交流会や、お盆や年末年始の帰

省時に燕市内で開催される交流会を通じて、県外にいても燕市との交流を持ち続けています。このように燕市の事業に関わった若者の市内就職者数が60名にのぼり、今後も増加が期待されます。

5. 課題と展望

課題はつばめ若者会議への新規参加者の獲得と、つばめ若者会議の認知度がまだ低いということです。市内中学校、高校を対象に実施した燕市役所まちあそび部の認知度調査アンケートでは、「知っている」と回答した生徒が20%、「内容はわからないが聞いたことはある」と回答した生徒が17%と全体の約4割にとどまっているため、活動内容の発信力を強化し、燕市の若者世代に届く周知を行うことが重要だと感じています。

また、これまでに行ってきた「まちあそび」や「まちこらぼ」を進化させ、市内中学生や市民の方も参加可能な活動を増やすことで、中学生の将来的な燕市役所まちあそび部への加入と、市内でのつばめ若者会議の認知度向上を図ります。

ゆるいまちづくりがさらに市内に浸透していくことで、「市全体が地元の若者を応援している」そんなまちになることで若者が地元へ愛着を持つきっかけになると考えています。

つばめ若者会議はこれからも若者の「やってみよう」に寄り添いまちのおとなと協力しながら燕市の魅力を若者に発見してもらい、楽しみながら燕市の魅力を発信していきます。

つばめ若者会議 HP



燕市役所まちあそび部「Instagram」



燕ジョイ活動部「Instagram」

